

事業活動実績報告書

施設名	学校法人東光学園 東光幼稚園
教育理念	○命の尊さを知り、自分や他人の身を大切にする心、思いやる心を育てる ○健康な身体と豊かな心 ～調和のとれた人間形成～ ○いろいろな遊び・体験・創作活動を通して想像力に富んだ子どもを育てる

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	～観て、作って、演じてみよう～ 「共感の感性を育む紙芝居の世界」
2 実施期間	令和 6年 4月 16日 ～ 令和 7年 3月 12日

3 取組概要	(取組日) 令和 6年 4月 16日 ～ 令和 6年 12月 17日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【研修】・新たな取り組みとして、年長児の紙芝居活動(製作・上演)を導入するに あたり本園絵画造形指導講師であり、紙芝居作家また演者である宮崎 二美枝氏に教諭が指導やサポートを受けながら進めていくこととした。 ・年長児の紙芝居製作の題材選びにあたり、興味や関心を持続しながら、観て感じて共有しあえるという視点で検討し、新緑 開花、結実、収穫と、常に傍らで四季を感じられる、園庭の「みかんの木」の観察と描画による表現、さらに気付きや発見の記録を綴るという形式で紙芝居を作成することに決定した。	
	(取組日) 令和 6年 4月 16日 ～ 令和 6年 12月 17日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・コミュニケーションエンターテイメントとしての紙芝居の持つ魅力や、幼児の育ちにもたらす意義や、読み手としてのスキル(声や表情、場面の切り替え方)について、宮崎氏の指導による職員研修会を、座学と子どもたちの鑑賞会も兼ねて実演会の両面で実施した。 ・実演会(鑑賞会)では、客席(幼児)からの目線、読み手の演じやすさ等を考慮した紙芝居舞台の設置や、舞台効果のライティング、開幕の臨場感を出す緞帳様の表紙の扱い方を学んだ。	
	(取組日) 令和 6年 5月 1日 ～ 令和 6年 11月 15日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【観察と記録】 ・大豊作だった昨秋年中組の記憶も新しく、収穫への期待が高まる中、今年は食べるだけでなくどうやってみかんの実になっていくかを観察しようと提案した。 ・開始当初は、一斉で観察する時間を作り「意識して観る」ことを習慣づけていた。低木ではあるが、見上げる高さなので、自力で登れる3段のステップを設置したところ、葉の表面や枝の中もじっくり観察できるようになり、自主的に見に行く姿が見られるようになった。	
	(取組日) 令和 6年 5月 1日 ～ 令和 6年 11月 15日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・開花、葉の裏についた卵や様々な虫、花が落ちた跡に小さな実がついたり、初夏の木の目まぐるしい変化への発見や気づきを帰りの会で発表しあい、「みかんの木」と称した記録ボードを設置し、日々の気付きや発見を葉っぱ型のカードに記録して貼っていった。 ・子どもには見えない部分に加えて、子ども自身で発見したものも撮影し、記録ボードに掲示した。徐々に「木」が賑やかになると、自発的に虫の絵を描き加える子も出てきた。	

3 取組概要	(取組日) 令和 6 年 5 月 1 日 ~ 令和 6 年 11 月 15 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・実がなり始めた頃は、比較的数量も多かったが、強風や大雨で大半が落ちてしまい、さらに酷暑の影響もあってか、葉が変形や変色したりして、異変が感じられたが、引き続き観察を実施していた。 ・ほとんど落ちてしまって葉ばかりの木ではあったが、わずかに残った数個のみかんに「大きなあれ」と声をかける様子も見られた。	
	(取組日) 令和 6 年 5 月 1 日 ~ 令和 6 年 11 月 15 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・辛うじて残っていた数個のみかんも、外皮の変色が酷く、実食は断念することにし、収穫後は、断面を観察したり、匂いを嗅いだりして楽しむことができた。 ・収穫日には、降園時に収穫した実を展示し保護者にも変色した状態を見てもらった。 ・成長をじっくりと見守り、収穫して食べることを楽しみにしていた気持ちを優先し、代わりに市販のみかんを購入しクラス全員で味わった。	
	(取組日) 令和 6 年 5 月 7 日 ~ 令和 7 年 2 月 25 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【描画活動】 ・紙芝居のベースとなる描画は、絵画造形あそびの活動として専任講師宮崎氏のサポートの下で開始した。 ・ストーリー先行の形式ではなく、その時その時観て感じたことを描き貯めていく記録作品として作成した。 ・「今日はこんな虫がいたよ」「雨がふってるね」といった情景を拾い上げながら、全員で同じ場面を描くことで友だちの作品に刺激やヒントを得る姿が見られた。	
	(取組日) 令和 6 年 5 月 7 日 ~ 令和 7 年 2 月 25 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・紙芝居作品としてだけでなく、年長児の絵画あそびの取り組みとして、新緑から開花、結実、収穫、実食までの折々の様子を、その都度様々な手法や形状で表現していった。 ○自分で描いて切った葉っぱのスタンプ。 ○接着シートを使って花びらの切り貼りをし、絵をのせていく。 ○筆圧で色の濃淡に変化を出す。 ○画用紙を縦につなげて、「木」の高さや大きさをダイナミックに表現する。	
	(取組日) 令和 6 年 11 月 22 日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・縦長の「木」は作品展に展示した。また、紙芝居の一場面としても登場させている。	
	(取組日) 令和 6 年 5 月 7 日 ~ 令和 7 年 3 月 12 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【ことばあそび】 ・紙芝居のストーリー作りの一環として、ことばあそびをふんだんに取り入れた。 ・「あ」ではじまるものは何？や絵カードを使って「何してる？」「つづきはどうか？」といった簡単なお話作りを通して、自分の考えや思いを喜んで発表できるようにした。	

3 取組概要	(取組日) 令和 7年 1月 17日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・「読み手」として演じる際の、思い切って声を出す、場面を想像して自由に表現する等の起爆剤として、またストーリー作りのヒントとして「うさぎの森企画」の大森靖枝氏と三根正信氏によるうたあそびの会「なんだろう なんだろう」を開催した。 ・歌とリズムに乗ったいくつもの簡単な問いかけ遊びやうたあそびが満載で、また子どもからのどんな言葉も表現も全て受け止めそれを使って展開していく事で、開放感が高まり普段自己表現が弱い子どもも嬉々として参加する姿が見られた。	
	(取組日) 令和 7年 1月 20日 ~ 令和 7年 2月 25日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【紙芝居ストーリー作り】 ・春から描き貯めてきた、みかんの木の記録作品を一場面づつ見て振り返りながら、思い出したことや、想像したことを発表しあい、場面と場面をお話として繋いでいった。 ・必ず一人一場面あたりの絵を選ばし、子どもたちから聞き取った言葉を宮崎氏の監修によりまとめ、「東光のみかんの木」として制作した。	
	(取組日) 令和 7年 3月 12日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 【紙芝居発表会】 ・紙芝居製作活動の締めくくりとして、読み手として演じる「紙芝居発表会」を年中組、年少組、満3歳児の前で実施した。 ・紙芝居の製本が間に合わなかったため、原画を使用して演じた。	
	(取組日) 令和 7年 3月 12日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	(取組日) 令和 7年 3月 21日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・表紙含む全19場面 (紙芝居製作のエピソード写真の付録付き) ・オリジナル装丁紙芝居専用ケース ・計7部を作成した。 ※園児には、セリフを録音しスライドショー形式での紙芝居動画のDVDを作成し、記念に贈呈した。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの

効果検証報告書

施 設 名	学校法人東光学園 東光幼稚園			
教 育 理 念	○命の尊さを知り、自分や他人の身を大切に心、思いやる心を育てる ○健康な身体と豊かな心 ～調和のとれた人間形成～ ○いろいろな遊び・体験・創作活動を通して想像力に富んだ子どもを育てる			
事業の区分(5領域)	健康 ・ 人間関係 環境 言葉 表現			
1 事業名	～観て、作って、演じてみよう～ 「共感の感性を育む紙芝居の世界」			
2 事業概要	●自分の思いや知識を伝えるために、紙芝居の手法で表現し伝える活動をする。 ●多様な表現の仕方を経験する(小さなお話作り、歌あそび、クレヨン遊び、絵の具遊びなど)			
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ●お話作りワークショップ(外部講師招請) ●歌あそびワークショップ(外部講師招請) ●絵の具遊び指導(外部講師招請) ●紙芝居作り指導(園内非常勤講師) ●紙芝居演じ方指導(外部講師招請)		
	事業後 3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・紙芝居作家である本園絵画造形指導講師、宮崎二美枝氏の全面的な協力体制の下で、「園庭のみかんの木」を題材に年長児クラスで取り組むことにした。子どもたちの観察エピソードに合わせて宮崎氏の指導により、様々な手法や形状で春から秋の木の生長を描き貯めることで、その時その時の思いや気づきを無理なく紙芝居のベースになる絵に描写することができた。また、宮崎氏により職員への座学研修や実演会を通して基本的な操作方法も研修できた。宮崎氏の紙芝居実演は学期ごとに全体会、クラスの活動時間内に適宜実施した。外部からは歌あそびのプロを招請し、思い切り声を出したり動き回る様子が見られる中、子ども同士触発されながら解放感を存分に味わえた。		
計画時	4 事業のねらい	●表現活動を通して、自分の思いを存分に発露する楽しさを味わう ●様々な表現の仕方を経験し、新しい発見や気づきによる興味や関心の幅を広げていく。 ●専門家の実演や指導を体験し、紙芝居の楽しさを味わう。 ●お話作りや紙芝居作り、紙芝居の実演体験を通して、誰かと関係をつくる、好きなことで影響しあうといった共感体験を味わいながら、豊かな人間関係を築く力を育む。		
	事業後 4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・みかんの木の観察に当たり、帰りの会で発表してもらった子どもたちの発見や気づきを葉っぱ型の観察カードに記入し、裸の木の観察ボードに貼っていった。どんな些細な事でも、友だちと内容が同じでも、構わずに葉っぱカードにして貼っていき、徐々に葉が増えていく様子を喜び、臆せず発言するようになっていった。また、友だちの発表を聞いて共感したり、そんな見方もあるのかと新たに気付く様子も見られていた。観察開始当初は、意図的に観察時間を設定していたが、徐々に自主的に見に行くようになり、観察ボードにも葉っぱカード以外に、虫の絵を描いて貼ったりと発展していく様子が見られた。専門家の実演鑑賞は十分に実施できたが、園児への実演体験の時間が取れなかったため、次年度には時間配分が必要である。		
計画時	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ●「多様な表現の仕方を経験する」 ・小さなお話作り ・歌あそび ・クレヨン遊び ・絵の具遊び。 ●専門家による実演の鑑賞と指導。 ●4場面程度の基本的な紙芝居作りを体験する。 ●クラスで共同して紙芝居づくりを体験する ●発表の場を設けて実演を体験する(年中、年少の友だち、保護者)		
	事業後 5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・紙芝居作りの一環として、絵カードを使っの簡単なお話作り等、日常の中でことば遊びをふんだんに取り入れた。友だちの発言や内容に共感したり、触発されて思いついたりする様子が見られた。4場面程度の基本的な紙芝居づくりを予定していたが、みかんの観察画を描き貯めていく方向にしたため、今年度は実施しなかったため、時期や方法を精査して次年度に挑戦したい。描き貯めた観察エピソードの絵を全員で春から順に振り返りながら、思い出したこと、想像したことを拾い上げ、次の場面に繋いでいくことで、自然な形で協同活動になったと思われる。卒園目前で年中以下の前で実演発表会を実施した。実演の練習に時間が取れず、担任とセリフを分担し職員が場面転換という形にはなったが、小さい友だちが真剣に見てくれたことを喜び「もっとやりたかった」という声が上がリ、達成感を味わえたと思われる。		

6 環境構成	● 専門家(外部講師・園内非常勤講師)による実演や指導を通しての関わり。 ● クラスの友だちとの共同作業や、下の学年への実演発表を通しての子ども同士の関わり。 ● クレヨン、絵の具、筆、紙といった基本的な画材と共に、多様な素材を使ったり、技法を使って表現あそびを楽しむ。 ● 机上、床上等、作業環境の違いによる楽しさを味わう。 ● 紙芝居舞台に実際に触れて、構造を知り、抜き差しの方法を学ぶ。 ● 園庭の木(桜、みかん、金木犀)の四季の移り変わりや、メダカの観察やエサやり等、身近な園内の自然の中で、クラスで共感できるものを見つけられるようにする。
事業後	6についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 ・みかんの木の観察を通して、何気ない日常の風景や自然に対して意識して観ようとする姿勢や、わずかな変化や発見を伝えようとする意欲が観られるようになった。 ・プロによる歌遊びの会では簡単に応えやすい問いかけ遊びやギター伴奏によるリズムや音色、また解放感を味わいながら声を出したり動き回りながら楽しむことができた。 ・宮崎氏の絵画造形あそびでは、みかんの観察画の中にスタンプや貼り絵等を取り入れたり、同じ絵の具を筆圧に変化をつけて色付けしたり、大きな木を表現する際に画用紙を縦につなげて、床上で腕を大きく動かしながら描いたりした。

7 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ● 色々な素材や画材等に触れる中で、自分なりの表現を見つけて楽しむようになる。 ● 演者によって変わる語りの表現を見聞きしながら、心地よい「ことば」「間」「声色」に気付く。 ● ことばや文字に興味を持つ。 ● 話す力をつけることでコミュニケーション能力が養われる。 ● 伝えるための手法が色々あることに気付く。 ● 人前で発表することを喜んで、他者の表現の違いや個性を認め合う。 ● 人に共感してもらえることで自己肯定感が育つ。 ● 友だちと共同で作業や発表をする中で、つまづきや喜び、達成感等の共感体験を通して、思いやりの心が育つ。
事業後	7についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 ・年間を通して専門家の実演を鑑賞でき、読み手が声色等に変化をつけていることに気付き、最後の紙芝居発表会ではセリフに表情をつけようと自分なりに工夫する姿も見られた。 ・観察のエピソードの結果を葉っぱのカードで可視化していくことで、人前で発表することへの自信や、友だちに共感してもらえることで自己肯定感につながり、喜んで挙手しては発見や気付きを発表しようとする子が増えていった。 ・紙芝居の実演に対する体験や指導に時間が取れず、担任や職員のサポートが多くなってしまった。

8 効果検証 総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 初の試みとして、紙芝居作家でもある本園の絵画造形指導講師宮崎二美枝氏の全面協力の下、じっくり見る、気付きや発見を言葉にする、感じたままを絵にする。何気ない日常に、意識して目を向けていくことで広がる学びの機会を広げようというコンセプトで、年長児による紙芝居活動(共同制作と実演)を取り入れた。題材には、子どもたちにとって親しみやすい身近な自然ということで、毎年収穫してみんなで食べている「みかん」を取り上げることにした。当初はこの題材をどのように紙芝居に仕立てていくのか焦点が定まらなかったが、宮崎氏の助言と立案により、新緑、開花、結実、収穫、実食までの経過を観察していきながら、その時その時の発見や気付きをタイムリーに絵に描写して、最後まで描き貯めてから、ストーリーをのせていく形で進めることとなった。当初は、意図的に観察の時間を設定していたが、枝の奥まで見られるようにと、3段のステップを設置したところ、徐々に「ちょっとみてみようかな」と自発的に見に行く姿が増えていった。また、帰りの会で、その日の発見や気付きを発表しあう場を設け、どんなことでも、友だちと同じ内容でも構わず全て拾い上げて、葉っぱ型のカードに書き入れて、裸の木のボードに貼っていった。自分の名前と言葉が描かれているカードが増えていく様子にさらに触発されて、観察も発表も意欲的になっていった。実食まで終えて描き貯めた絵を順に振り返ってみると、春から秋までのみかんの木の変化こそがとてもドラマティックなストーリーになっていることに感動したとともに、子どもたちが余計な気負いもなく自然に物語を綴れる最適な題材であったと実感した。今回、子どもたちによる実演も計画に入れていたが、実演に対する体験や指導への時間配分ができず、担任や職員のサポートを入れての実演会となってしまった。また、幼児がセリフを読むにあたって、まず文字を読むことが一つの課題でもあった。今回は裏書を見ながら読むのではなく、事前にある程度覚えてセリフを言う形になった。それでも「もっとやりたかった」という声が上がリ、達成感を持って終了できたと思われる。まずは一人でセリフを読むことを今後どう進めていくかを検討していく。
--------------	---